

地域における SDGs 教育の場としての「エディブル・ユニバーシティ」の構築



食と農からコミュニティ作り

体験学習
地域連携
食と農×SDGs教育

DATA

- **主な連携先・メンバー**
NPO 法人 kokoima / 一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパン / とようけのもり / 麦わら協生農園
- **活動地域**
大阪府堺市・奈良県奈良市（とようけのもり）
- **活動期間**
2020 年度～継続中
- **活動資金**
堺市と関西大学との地域連携事業

目的

堺市に在住する若者や子どもたちが多様な人とのつながりを体験しながら農に関わることを通して、日常生活のなかで食のあり方や農を支える自然との関わりを考え、身近な日常生活のなかで、SDGs に繋がる具体的な行動を創造していくこと。

連携に至る経緯

2020 年初めからの新型コロナウイルス感染拡大に伴い SDGs が掲げる持続可能な社会の実現にむけて食と農を通しての環境教育プログラムを堺キャンパスで提供する準備を進めた。2021 年度に学生が農業研修を行っている奈良の「とようけのもり」において、堺市の子どもを対象に一日自然体験プログラムを提供。2022 年度第 3 回「関西大学×法政大学 SDGs アクションプランコンテスト」。奈良での自然体験プログラム作り、堺キャンパスでの畑活動について受賞。「エディブル・スクール・ヤード」を土台により多様な人びとが集い学び、堺キャンパスを拠点に食と農を軸に子ども（特に不登校児）、障がい者、高齢者が集える多様な場としての「エディブル・ユニバーシティ」を構築していく。

活動内容

堺、奈良をフィールドに、2024 年 5 月から「とようけのもり」での農業研修、イベントを開催。2024 年 9 月自然体験プログラム「リアルサバイバルゲーム」を開催。2024 年 7 月堺キャンパスにて「Festival 浅香山」協生農法の講演・実習を展開した。

竹の水鉄砲づくりや川遊びなど水環境に触れる体験を通じ、子ども

の主体性・協働性を育むと同時に、学生は企画運営・安全管理・評価のスキルを実践的に習得。地域 NPO・専門家・自治体と連携しながら、大学発の食と環境の学びを体系化し、広報・学校連携を強化して参加の裾野を広げた。



倒れた木を皆で協力して運び、ごみ拾い
Before → After



『Festival 浅香山』チラシ

竹の水鉄砲づくり



活動の成果

- ≫ 大学発の食と環境の SDGs 教育プログラムが定着。
- ≫ 自然体験を通じた環境配慮行動が地域へ波及。
- ≫ 産官学民が連携する学習拠点としての基盤が強化。

連携先からの一言

全国で農業従事者が激減するなか「依存型」から「協創型」農業へのシフトが急務です。関西大学の学生達や地域住民の皆様と力を合わせ、持続可能な社会の実現をめざしたいと思います。

（麦わら協生農園 森 哲也氏）

今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫ 活動を全国に広げられるようにアピールし、同様の活動者を増加させる。
- ≫ 不登校児童の人数を減らすことができたと言える活動方法を模索する。

人間健康学部 教授 村川 治彦 Murakawa Haruhiko



身体性とケアを軸に、自治体と協働して地域課題の可視化と支援モデル構築を進め、住民のウェルビーイング向上に資する実践研究を展開している。

